

I. 長岡市の概要

1. 沿革

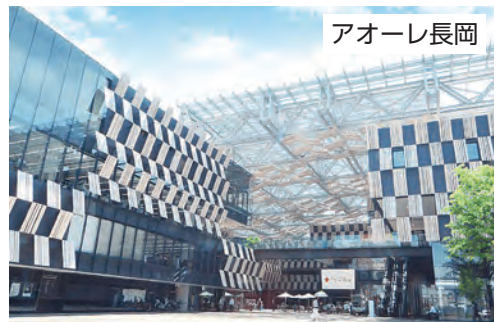
長岡市は新潟県のほぼ中央に位置し、県内では新潟市に次いで第2位の人口を有するとともに、約891km²の行政区域面積を誇る、中越地方で最大規模の市です。

長岡のまちは、江戸時代に牧野氏7万4千石の城下町として栄えましたが、戊辰戦争により、幕末期におけるまで築き上げられてきたまちのたたずまいは、一瞬にして失われてしまいました。

焼失した長岡のまちは、明治期に入ってから徐々に復興され、明治39年4月1日の市制施行により、新たな長岡市が誕生しました。以降、大正8年施行の都市計画法に基づき、大正15年に都市計画区域、昭和3年に用途地域、昭和6年に都市計画道路をそれぞれ都市計画決定し、計画的なまちづくりを進めてきました。しかし、昭和20年8月1日に空襲を受け、市街地の約8割を焼失する被害を受けました。

戦災によって焼失したまちを新しい都市として再建するため、昭和21年に新潟県知事施行の戦災復興土地区画整理事業が実施され、昭和28年から始まった昭和の大合併により、市域が拡大しました。さらに、平成17年4月1日に中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町、平成18年1月1日に和島村、寺泊町、栃尾市、与板町、平成22年3月31日に川口町と合併したことで、守門岳から日本海までの広大な市域と多種多様な地域資源を有する新しいまちとなりました。

現在、各地の文化や歴史ある地域資源を次世代へ継承するため、人材育成や未来への投資を積極的に行っています。



- ・市の中央部には日本一の大河信濃川が貫流し、その両岸に肥沃な沖積平野が広がる。
- ・東西には、東山連峰や西山丘陵地が連なる。

2. 人 口

本市の人口は、これまで幾度かの市町村合併を経て増加してきました。しかし近年は少子高齢化に伴って減少傾向にあり、令和2年の国勢調査では約26万7千人となっています。

○人口の推移【国勢調査】

年 次	人 口	世 帯 数	世帯人員	面 積 (km ²)	DID (人口集中地区)		備考
					人 口	面積 (km ²)	
平成2年	185,938	56,425	3.30	262.63	116,643	19.2	
7	190,470	61,725	3.09	262.45	123,311	21.0	
12	193,414	66,680	2.90	262.45	123,641	21.9	
17	288,457	96,722	2.98	890.91	130,053	24.2	※1
22	282,674	98,725	2.86	890.91	133,277	25.9	
27	275,133	100,143	2.75	891.06	132,473	27.0	
令和2年	266,936	104,489	2.55	891.06	130,872	27.9	

※1 平成17年の数値には、平成18年1月1日及び平成22年3月31日の合併市町村分についても合算しています。

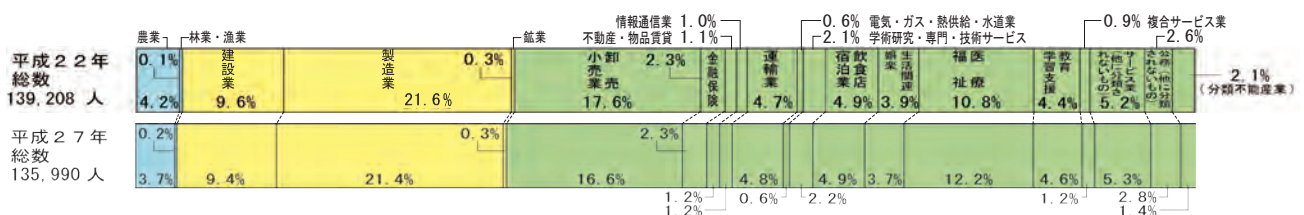
3. 産 業

本市では、明治中期に東山油田が発見され、基幹産業の基礎となる機械、化学工業が発達しました。それ以降、一般機械器具をはじめ、電子部品・デバイス、精密機械器具、食料品などの製造業が本市の産業を支えています。近年では、生物資源やバイオテクノロジーを活用した地域産業の活性化と経済成長を実現する「バイオエコノミー」に取り組んでいます。

商業では、JR長岡駅周辺や千秋が原・古正寺地区を中心に、広域的な商業・業務拠点を形成しています。新潟県の中越地方を中心に約61万人の商圈人口を抱え、県内第2位の商業都市として求心力を維持しています。

農業では、信濃川兩岸に広がる肥沃な越後平野における稲作が中心となっています。また、地域ブランドとして「長岡野菜」などの生産にも力を入れています。

○産業別就業者の推移【国勢調査】



4. 市街地の変遷

本市では、「長岡都市計画区域」、「栃尾都市計画区域」、「川口都市計画区域」の3つの都市計画区域を指定しています。長岡都市計画区域では、無秩序な市街地の拡大を防止し、効率的な公共投資等を図るため、昭和45年に都市計画区域を「市街化区域」と「市街化調整区域」に区分しました。以来、人口増加及びモータリゼーションの進展に対応して計画的に市街地の拡大を図り、信濃川両岸に良好な市街地が広がっています。

現在、市街化区域として約4,819ha、市街化調整区域として約25,081haを指定しています。また、栃尾都市計画区域では用途地域として約473ha、川口都市計画区域では用途地域として約45haを定めています。引き続き、区域の特性に応じたまちづくりを進めます。

○市街地の変遷

